

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520459

研究課題名(和文)新発見の音声資料によるモゴール語の総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of the Moghol Language Based on a Newly Found Recorded Material

研究代表者

齋藤 純男 (SAITO, Yoshio)

東京学芸大学・留学生センター・教授

研究者番号：10225740

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：アフガニスタンにおけるモンゴル系のモゴール語は現在絶滅した可能性の高い言語であるが、服部四郎が1961年に現地調査を行なった際の未発表の録音資料が島根県立大学の資料中に発見され、それに基づいて研究を行なった。モンゴル系語彙を含むハザーラ語の話者の協力を得ながら、録音されたモゴール語の語や文を音声・文法・意味の面から詳しく記述した。使用した録音資料からは、モゴール人はハザーラ語も話すという新しい情報も得られた。また、永久的保存のためテープによる録音資料をデジタル化するとともに、過去に発表されたモゴール語語彙を電子化してデータベースの基礎とした。

研究成果の概要(英文)：The Moghol language, a Mongolic language in Afghanistan, may possibly be extinct by now. But, the recordings of the language made in 1961 in Afghanistan by Shiro Hattori was found in the collection of the University of Shimane, and we have conducted a research based on them. With the assistance of a speaker of Hazaragi, a variety of the Persian language with some Mongolic vocabulary, we have made detailed phonetic, grammatical and semantic descriptions of the Moghol words and sentences in the recordings. The recordings also provided us with new information that the Moghols spoke Hazaragi as well. In addition to the study of the language itself, we have converted the original materials on audio tapes to digital format for permanent preservation, and have input the Moghol materials in the previously published works into computer for a future database.

研究分野：言語学

キーワード：モゴール語 アフガニスタン モンゴル語

1. 研究開始当初の背景

モゴール語は、13世紀に中央アジアに進出したモンゴル人の後裔と言われるモゴール族の言語であり、20世紀半ばにはすでに絶滅危機言語で、自由に話せる者はいなかった。京都大学の探検隊の一員としてアフガニスタンの或る村で調査を行った梅棹忠夫は1956年に「せっかくここまで来たが数十年おそすぎた。モゴール族の日常語は、いまではペルシャ語だ。モゴール語は、数人の老人がわずかに記憶しているだけで、消滅寸前であった。」と記している(『アフガニスタンの旅』岩波書店)。したがって、現在はほぼ絶滅しているのではないかと考えられる。

モゴール語は、モンゴル本土から離れて孤立していた上、周囲のイラン系の言語と接触していたため、音声・文法・語彙のすべての面において他のモンゴル系諸言語には見られない特徴を多く持っている。それらの特徴はモゴール語自体の特徴として興味深いだけでなく、モンゴル系諸言語の歴史言語学的研究やモンゴル祖語の再建に当たってきわめて重要なものが含まれている。

これまでモゴール語の研究は以下のように行われてきた。

・1900年代初頭：Ramstedtによる小調査。数日間の聞き取り調査に基づいた論文が発表されたが、録音資料は無い。

・1930～70年代初頭：Ligeti, 岩村忍とSchurmann, 京都大学の学術探検隊、ボン大学の学術調査隊による現地調査と文字資料の獲得。対訳語彙集や言語的特徴に関する研究などがいくつか発表されたが、録音資料は公開されていないばかりか、現在、それらの所在は不明となっている。

・1970年代末以降：アフガニスタンの政治情勢悪化により調査不可能。新たな口語資料の収集はない。

最後の調査から40年経った現在、調査が可能になったとしてもモゴール語自体がすで

に絶滅している可能性がきわめて高いので、新たな研究の可能性はなかった。

こうした中で、井上治が2003年より島根県立大学服部四郎ウラル・アルタイ文庫所蔵資料の調査を開始したところ、その中に服部四郎が1961年にアフガニスタンで言語調査を行った際の約10時間分の録音テープを発見し、そこにモゴール語が録音されていることと服部四郎自身はこの音声資料に基づく研究を行わなかったことを確認した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、この現在所在の分かっている唯一の音声資料に基づいてモゴール語を総合的に研究することである。この言語の音声・語彙・文法の記述と分析を行い、さらにモンゴル系諸言語の比較研究における新たな資料として活用する。

3. 研究の方法

ダリー語・ハザーラ語等、現地の言語に詳しい研究協力者の協力を得て、音声資料中のモゴール語を記述する。

4. 研究成果

録音資料に含まれるモゴール語の単語と文を音形・意味・文法の面から把握し記述する作業を行なった。

音声データのノイズ除去とデジタル化を行ない、資料の永久的保存に備えた。

過去の他の調査・研究資料に見られるモゴール語の単語を入力し、語彙集作成の準備を進めた。

本研究で使用した新発見の録音資料において、モゴール語を語っているコンサルタントの一部はダリー語ではなくハザーラ語を話していること、これまでに記述されているモゴール語と異なった意味を持つモンゴル語系の語彙があること、周辺諸言語との接触によって取り入れられたと考えられるいく

つかの独特の表現が発達していること、同じ概念を表す語が話者によって異なっている場合があること、などの現象を新しく確認した。今後、新たなモゴール語録音資料が発見される可能性が小さいことから、これらはこの言語に関するほぼ最後となる一連の新知見をもたらすという意味を持つ。

服部四郎がモゴール語を知るためには彼らが話すペルシア語を知らなければならぬと書いている。ハザーラ語はモンゴル系およびテュルク系の言語の影響を受けた（もしくは、モンゴル語が基層となった）ペルシア語の一方言である。服部が言うところの、彼らが話すペルシア語とはハザーラ語のことである。この研究の成果のひとつとして、一部のモゴール人がハザーラ語を用いていることを明らかにしたことは、今後のモゴール語研究においては、ハザーラ語を視野に入れる必要があるということを示唆する。

得られたモゴール語のデータは、データベースを作成するための重要な基礎資料のひとつとなる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

TAKAGI Sanae, *Īngū in Iran under the Ilkhanate. Orient* 50. 77-90. 2014

〔学会発表〕(計 1件)

SAITÔ Yoshio, INOUE Osamu, Mōngkedalai, TAKAGI Sanae, *The Audio Materials of the Moghol Language in the Shirō Hattori Library. Proceedings of the 11th Seoul International Altaic Conference.* 391-395. Seoul: The Altaic Society of Korea. 2013

〔図書〕(計 1件)

INOUE Osamu, *Incense Offering Text “Sang” and Mountain Worship of the Mongols. A Window onto the Other.* 130-145. Warsaw: Elipsa. 2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋藤 純男 (SAITÔ, Yoshio)

東京学芸大学・留学生センター・教授

研究者番号: 10225740

(2) 研究分担者

井上 治 (INOUE, Osamu)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号: 70287944

孟 達来 (Möngkedalai)

島根県立大学・総合政策学部・助手

研究者番号： 40609913

高木 小苗 (TAKAGI, Sanae)

早稲田大学・文学学術院・助手

研究者番号： 70633361

(3)連携研究者

()

研究者番号：